

日本の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今後45年間で31%減少して約8800万人になるとい

う。
また、日本人のリンゴ消費量も総務省家計調査の

国内の製造業が海外移転したのは、安価で豊富な労働力が調達できるの

5万トン時代へ 青森リンゴ輸出

50

査の直近23年間で、ちょうど2割減少。リンゴをよく食べるのは60歳代以上で、30歳未満の若年層はその10分の1しか食べない。しかも若い時の食習慣が維持されると

と、旺盛な需要が期待できるところ。簡単に海外移転できない農業分野は、せめて海外需要をもっと取り込むべきだ。幸いなことに、アジアに青森リンゴの広大なマーケットが存在する。

これだけで、よほどのこれを生かさない手はない。

リンゴ産業けん引役に

い。

約3割の人口減から単

純に計算すれば、青森リンゴ流通量の3割、約9

万トンを、国内消費から輸出や新たな需要に振り向けなければ、いずれは産業として立ち行かなくなる恐れがある。

と確信している。

りりんご輸出協会の太田一民理事長は、当面の輸出目標を県計画の4万トンを上回る5万トと提唱している。将来の需給予想からみると決して大きな数字ではない。当連載の「5万トン時代へ」のタイトルとなっているゆえんだ。

昨年4月から始まった当連載は、今回が最終回となりました。つたない文章にお付き合いいただき、感謝申し上げます。

りりんご輸出協会（県りんご輸出協会）は、県りんご輸出協会HP (<http://carin.co.jp/>) に載っています。見逃した方はアクセスしてください。

当連載のバックナンバーは、県りんご輸出協会HP (<http://carin.co.jp/>) に載っています。見逃した方はアクセスしてください。

太田氏をはじめ多くのりんご関係者が明治の先人から脈々と続くりんご輸出のDNAを引き継い

できた。輸出が青森リンゴ産業を今後とも発展させていくためのけん引役となることは間違いないと確信している。

りりんご輸出協会事務局長 深澤守

終わり

輸出5万トンがもたらすもの



青森リンゴの活力が凝縮されているようだが、弘前中央果競り人の威勢の良い掛け声が響く

約3割の人口減から単

純に計算すれば、青森リンゴ流通量の3割、約9

万トンを、国内消費から輸出や新たな需要に振り向けなければ、いずれは産業として立ち行かなくなる恐れがある。

と確信している。

りりんご輸出協会の太田一民理事長は、当面の輸出目標を県計画の4万トンを上回る5万トと提唱している。将来の需給予想からみると決して大きな数字ではない。当連載の「5万トン時代へ」のタイトルとなっているゆえんだ。

昨年4月から始まった当連載は、今回が最終回となりました。つたない文章にお付き合いいただき、感謝申し上げます。

りりんご輸出協会（県りんご輸出協会）は、県りんご輸出協会HP (<http://carin.co.jp/>) に載っています。見逃した方はアクセスしてください。

当連載のバックナンバーは、県りんご輸出協会HP (<http://carin.co.jp/>) に載っています。見逃した方はアクセスしてください。

太田氏をはじめ多くのりんご関係者が明治の先人から脈々と続くりんご輸出のDNAを引き継い

できた。輸出が青森リンゴ産業を今後とも発展させていくためのけん引役となることは間違いないと確信している。

りりんご輸出協会事務局長 深澤守

終わり